

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称: ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 2021年12月30日

【運用実績】

過去のパフォーマンス(%)	直近の分配実績(円)	
	ファンド	TOPIX配当込
過去1ヵ月間	0.34	3.45
過去3ヵ月間	3.11	-1.69
過去6ヵ月間	2.62	3.53
過去1年間	7.78	12.74
過去3年間	34.61	43.01
設定来	198.78	159.15
		設定来累計
		1,300

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	65.6	35
ショート	-27.0	36
ネット	38.6	-
グロス	92.6	-

※ 比率は対純資産総額
※ ネットはロングとショートとの差引、グロスはロングとショートとの合計です。

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	51.5
東証2部	0.5
東証マザーズ	9.6
ジャスダック	4.0
その他市場	0.0

※比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

業種	比率(%)
機械	12.0
サービス業	11.2
情報・通信業	8.8
電気機器	8.2
金属製品	5.4
その他	20.0

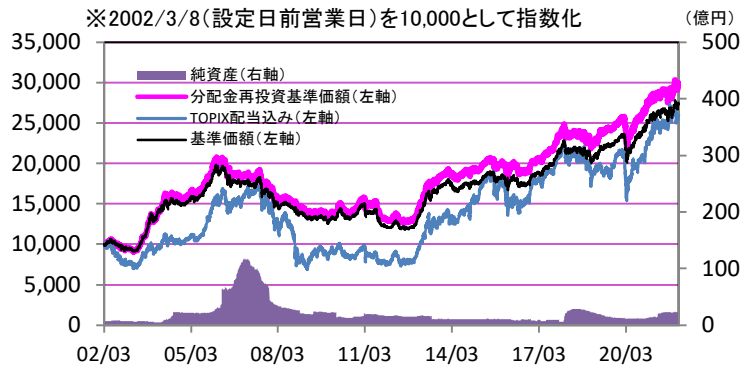
※比率は対純資産総額

【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
27,417 円	27,335 円	22.78 億円

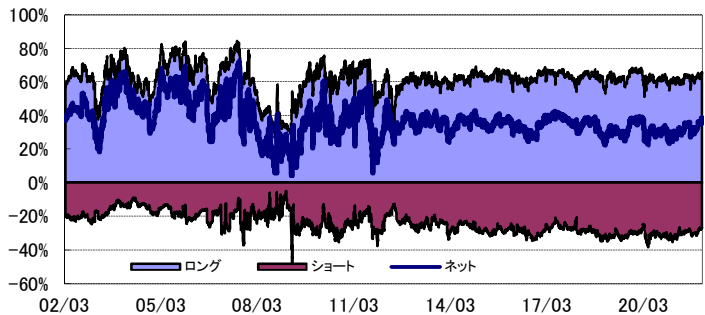
ハイ・ウォーター・マーク 26,830 円

※ 基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
※ 当該ハイ・ウォーター・マークは、当ファンドの毎計算期間末(毎年3月10日、休日の場合は翌営業日)および毎計算期間の最初の6ヵ月終了日に更新される場合があります。詳しくは委託会社にお問い合わせください。



※2002/3/8(設定日前営業日)を10,000として指数化 (億円)
※基準価額は信託報酬・実績報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。
※当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



※ 比率は対純資産総額、ネットはロングとショートとの差引

【組入有価証券上位10銘柄(ロング)】

順位	銘柄	業種	比率(%)
1	UTグループ	サービス業	4.1
2	SMC	機械	4.1
3	DMG森精機	機械	3.9
4	ギフト	小売業	3.9
5	村田製作所	電気機器	3.7
6	SUMCO	金属製品	3.6
7	東急不動産ホールディングス	不動産業	3.5
8	東京エレクトロン	電気機器	2.8
9	ペプチドリーム	医薬品	2.6
10	アンビスホールディングス	サービス業	2.6

※比率は対純資産総額

※ 上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。

※ 「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。



スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 2021年12月30日

ファンド・マネージャーのコメント

【市況状況】

2021年12月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は前月末比3.45%の上昇となりました。

当月の日本株式市場は、新型コロナウイルスの変異種（オミクロン株）に対する警戒から前月末に急落したことを受けた反発狙いの買いが入り、上昇して始まりました。

月半ばは、各国の中央銀行による金融政策正常化に向けた動きや、中国人民銀行（中央銀行）の利下げ決定を受けた中国経済の先行き懸念などから下落に転じました。

年末にかけては市場参加者の減少により出来高が細る中、半導体関連銘柄への資金流入により強含む展開となりました。日経平均株価の終値は28,791円71銭となり、1989年以来の高値となって2021年の取引を終えました。

【運用状況】

12月の当ファンドは、DMG森精機、東急不動産ホールディングスなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。

DMG森精機は、高水準の受注が継続して獲得できていることで来期以降の増益見通しが高まり、株価が上昇しました。東急不動産ホールディングスは、競争環境の悪化で不採算に陥っていたハンズ事業の売却を発表したことで資産効率の改善、コロナ禍による悪影響の緩和を期待し、株価が上昇しました。

一方、プラスアルファ・コンサルティング、オロなどが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

プラスアルファ・コンサルティングは、前月に大きく上昇したことで東証マザーズ指数が大きく下落したことに連動して、株価が下落しました。オロは、新型コロナウイルスの感染再拡大で広告事業に対する先行き不透明感が高まったことで、株価が下落しました。

【運用方針】

2021年の日本株式市場を振り返ってみると、TOPIXは+10.40%、日経平均株価は+4.91%、東証マザーズ指数は-17.43%とまちまちの動きとなりました。他方、米国株式市場を見るとダウ平均株価は+18.73%、ナスダック指数は+21.39%と大きく上昇し、日本株式市場の出遅れが目立ちます。

半導体不足やアジア地域の生産活動の混乱、海上輸送などの物流の混乱が製造業企業の事業活動にマイナスに影響したことが主因と考えられます。しかしこれらのマイナス要因は徐々に解消に向かっていることに加え、今後本格化する最大規模の補正予算による経済活動の支援が後押しになり、2022年の日本経済は力強く成長する可能性が高いと考えています。資源価格や人件費などコスト上昇をサービス価格や製品価格に転嫁できる競争力の有無をロング投資とショート投資の軸として運用を行う方針です。

12月にはハーモニック・ドライブ・システムズに新規投資しました。同社はロボットや精密機械に使用される変減速機メーカーです。変減速機はロボットの関節にあたる部分で動きを制御する部品で、同社製品の品質がロボットの精度に直結する精密な位置制御に欠かせない重要な部品です。世界的な自動化投資の拡大、半導体を中心とするエレクトロニクス業界の旺盛な設備投資によって同社製品に対する高水準な需要が続いていますが、株価を見ると2020年12月の高値から2021年11月の安値まで半分以下の水準まで下落していることをきっかけに、新規投資しました。

これまでの株価下落要因は、主に下記の二つと考えています。

1. 現在好調な受注環境がピークアウトする懸念を先読みしたもの
2. 同社の大株主で19%を保有したナブテスコが保有する同社株の全てを売却する意向を示していることによる株式需給の悪化懸念

これら二つの要因は一時的な要因で同社の本質的な企業価値に影響はなく株価の下落によって既に反映されていると、当ファンドは考えます。

需要に関しては、エレクトロニクス産業だけでなくロボットなど精密機器に対する設備投資意欲はコロナ禍による一時的なブームではなく、中国企業の製造品質向上のための投資、米中貿易摩擦による生産拠点の現地化に向けた投資や電気自動車や環境関連の新しい投資などの大きな潮流が顕在化したものと考えており、旺盛な需要環境が続くと予想しています。また同社株主の異動に関しての特段の見解はありませんが、高い技術力を持つ同社に対しては事業会社も含めた投資家の関心は高く、大きなマイナス要因ではないと考えています。2021年に大きく盛り上がった受注がいったん沈静化し、持続可能な受注水準に落ち着くとともに同社の中長期の事業価値が再評価される展開を予想しています。

一方ショート投資では、コロナ禍の環境で高く評価されたものの2021年に業績が頭打ちとなり大きく株価下落した企業に対する買戻しを行い、利益を確定しました。今後の新規のショート投資先としては、原材料価格を中心としたコストアップが収益を圧迫する低収益な事業を展開する企業を対象に調査を進めています。短期的な収益悪化に留まらず中長期の視点で企業価値の改善が図れないと判断した企業には、長期のショート投資が可能と考えています。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。